

麦作技術情報 No. 3

令和4年3月25日
鳥取県産米改良協会

令和4年産(令和3年播種)上旬播種麦の現時点の出穂期予測日は4月7日で平年に比べて遅くなっている(11月3日播種「しゅんれい」)が、今後の高温で早まる可能性があるため、適期を逃さないよう病虫害防除等の管理を確実にすることが重要である。

■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病は、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底し、発生させないよう努める。
- ・網斑病の病勢が進展する時期であるため、発生を見たら、適期防除に努める。

■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い(明渠と排水溝をつなぎ、速やかに排水されるようにする)土壌が乾きやすく湿害を受けない環境を作ることが重要である。

【現在までの気象経過】

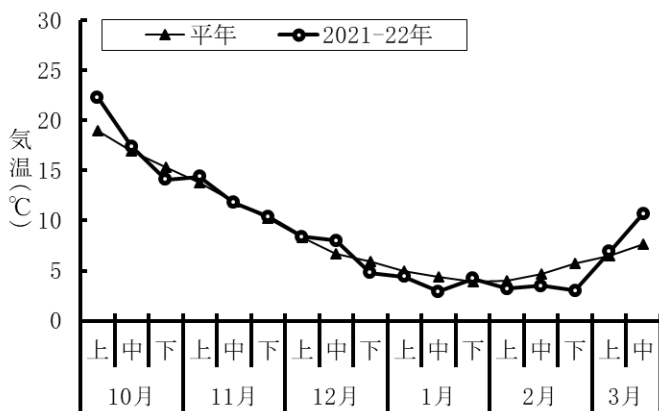


図1 2021-22年日平均気温(倉吉市)

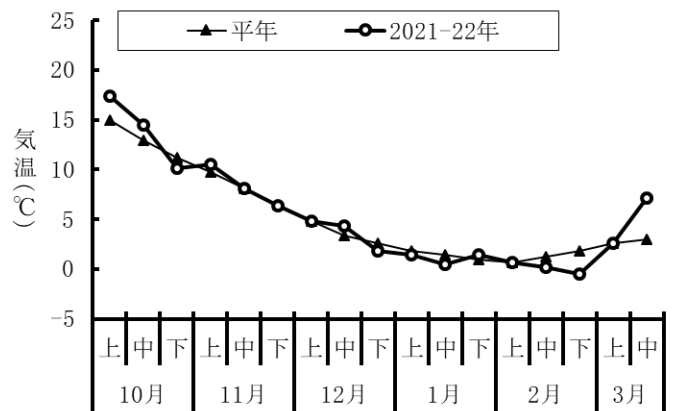


図2 2021-22年日最低気温(倉吉市)

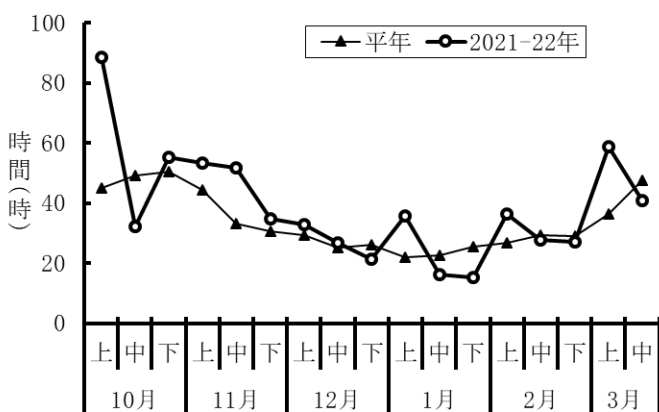


図3 2021-22年旬別日照時間(倉吉市)

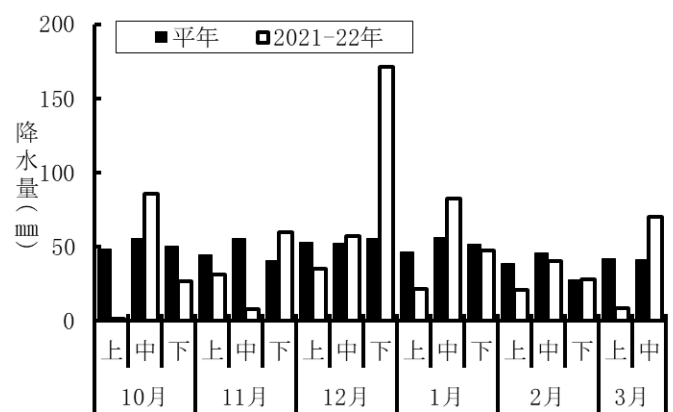


図4 2021-22年旬別降水量(倉吉市)

12月上旬までは平年並の気温で推移、12月中旬は高め、12月下旬以降2月中は低めの気温で推移。12月下旬にまとまった降雪があり、平年に比べ降水量(降雪量)が多かった。

3月に入ると高温傾向となり、3月中旬の平均気温は平年に比べて3℃高くなっている。

I 気象予報

中国地方 1か月予報 (3月26日から4月25日までの天候見通し)

令和4年3月24日
広島地方気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

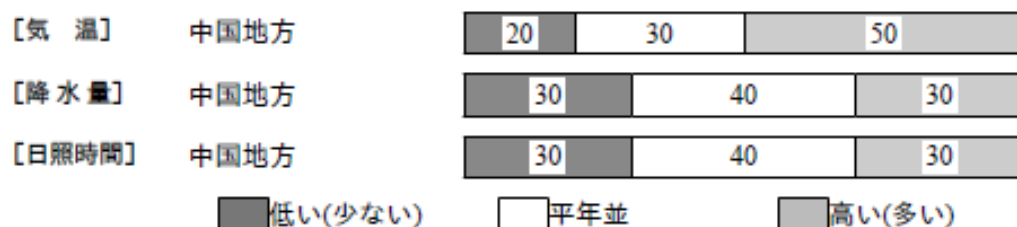
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

山陰では、天気は数日の周期で変わるでしょう。山陽では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

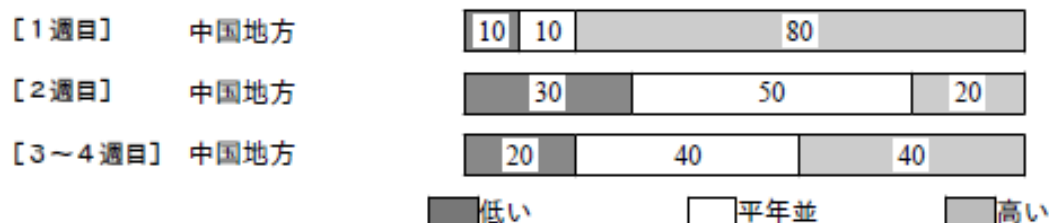
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 3月26日(土)～4月25日(月)
1週目 : 3月26日(土)～4月1日(金)
2週目 : 4月2日(土)～4月8日(金)
3～4週目 : 4月9日(土)～4月22日(金)

II 「しゅんれい」(二条大麦)の生育概況

【現地ほ場】

- ・12月下旬から2月下旬は平年に比べて気温が低く積雪も多かったため、生育は平年に比べて遅くなっているが、3月に入って気温が上がり、生育は順調に進んでいる。特記すべき病害虫の発生は見られていない。
- ・倉吉市「しゅんれい」の3月24日現在の出穂期予測結果は、11月3日播種ほ場で4月7日の予測となっており、平年に比べて遅くなっている。

【農業試験場生育観測ほ場】

- ・農業試験場11月17日播種「しゅんれい」は、1月24日に幼穂形成期を迎え、3月23日時点で幼穂長7～8mm、節間長40～50mm、茎立ち期は3月中下旬で、平年に比べて生育は遅くなっている。雪解け以降生育が進んできたが、平年に比べて茎数が少なく、草丈は低く、葉色は高くなっている。

表 ビール麦「しゅんれい」の生育状況(播種後約4か月:3月上旬)

項目	平成29 年産	平成30 年産	令和元 年産	令和2 年産	令和3 年産	令和4 年産	過去平均比(差)
茎数/m ²	806	816	618	986	803	724	90
草丈cm	29.9	27.4	39.5	45.8	27.2	17.8	52
葉色SPAD	36.8	42.5	41.5	45.5	46.3	49.9	117
葉齢	8.1	8.4	9.7	10.7	9.8	8.0	86

表 「しゅんれい」における過去の出穂期(農試場内11月上旬播種)

産年	出穂期 月日
29年産	4月10日
30年産	4月8日
R元年産	3月30日
R2年産	3月21日
R3年産	4月1日
過去5平均	4月1日

※R4年産については、11月中旬播種で、R4年3月17日時点で止葉未抽出であり、葉耳間長から推測する出穂期予測は未実施。

III 技術対策

1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦は、充実度が悪い等の理由で等級の低下となる場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでないか、排水状況を点検し、手直しを行い速やかに排水が出来る状況にする。

2 病害虫防除

(1) 網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤 25(1,000 倍、収穫 21 日前まで、1回)等を散布する(展着剤を加用のこと)。

(2) うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

(3) 赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20~27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

赤かび病防除対策

	麦種	防除時期	農薬名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7~10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7~10日後	
	小麦		

使用基準(赤かび病)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	大麦:収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンMゾル	1,500倍	大麦:収穫21日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
	1,000~1,500倍	小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
			3回以内(出穂期以降は2回以内)
ミラビスフロアブル	1,500~2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	

(注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジン M 水和剤、トップジン M ゾル、ワークアップフロアブルおよびミラビスフロアブルの防除効果が高い。
- ・水和剤の散布に当たっては、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゾル、同粉剤等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

○農作業事故防止を徹底しましょう！

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

あっ、危ない！

トラクター、動力運搬車の重大事故多発



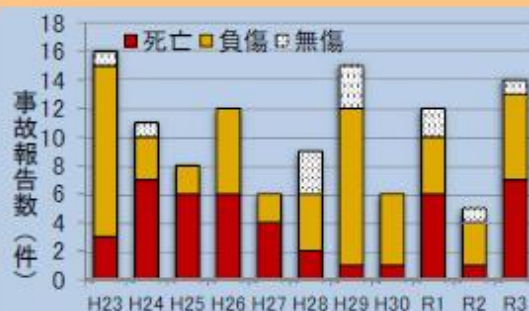
令和3年度に県内で発生した農作業中の重大事故(11月末現在)

負傷程度	使用機械	年齢	場所	事故の概要
死亡	動力運搬車	70代	田	ひかれ
	動力運搬車	70代	用水路	転落
	動力運搬車	90代	畑	ひかれ
	動力運搬車	80代	畑	ひかれ
	乗用型トラクター	80代	畑	ロータリーへ巻き込まれ
	スピードスプレーヤー	40代	果樹園	挟まれ(SSと製の枝)
重傷	-	80代	畑	熱中症
	乗用型トラクター	80代	田進入路	横転(急な登り坂を前進)
	乗用型トラクター	70代	田進入路	横転(急坂での操作ミス)

- ・動力運搬車でのひかれ事故が多い
- ・乗用トラクターでの横転事故が多い
- ・死亡事故は70歳代以上が大半

★ ヒヤリ・ハットは事故の予兆です。

★ 大切なものを失う前に安全な操作・作業方法を再確認しましょう。



県内の農作業事故報告数の推移
※県に報告のあったもの。(R3年度は11月末現在)

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局

鳥取県農林水産部経営支援課

電話0857-26-7327

JA鳥取県中央会農業くらし対策部

電話0857-21-2607

令和4年1月発行

トラクター

安全のポイント！

- ① **安全キャブ・フレームとシートベルト着用の徹底**
(安全キャブ・フレーム装備の場合、シートベルトの着用で更に安全を徹底)
- ② **危険箇所のチェック**
(移動道路やほ場の危険箇所を事前確認し、改良や目印の設置など)
- ③ **ほ場進入路の幅・勾配の改良**
(トラクター事故で最も多い転落転倒は、ほ場出入り時に発生)
- ④ **ほ場作業が終わったらブレーキ連結**
(ブレーキ連結は、必ずほ場を出る前に行います)
- ⑤ **低速車マークや反射板(シール)を装備**
(自動車から見にくいいため、道路上で追突される事故が発生)
- ⑥ **公道走行は、機械の大きさに応じた免許で**
(幅1.7m、長さ4.7m、高さ2.0m、最高速度15km/時を超える機械での公道走行には大型特殊免許が必要)



動力運搬車

安全のポイント！

- ① **発進前に走行レバーの進行方向を必ず確認**
(逆方向に動いて、ひかれ、挟まれによる事故が多い)
- ② **後退時には後方や足下の状況確認を**
(物と機械の間に挟まれる事故を防ぐため、後方の障害物に注意)
- ③ **エンジン始動は操作レバーを中立に**
(ひかれ、挟まれによる死亡事故が多い)
- ④ **走行時はハンドルを正規の位置に**
(ハンドルの向きが変わる機種では、走行前にハンドルの位置を必ず確認する)
- ⑤ **道路上の走行はなるべく避ける**
(公道を走れる機種と、走れない機種があることに注意します)



農機具盗難にも注意！

農機具は目につきやすい場所に置かず、使用後は鍵のかかる小屋や倉庫に保管しましょう。

協議会からのお知らせ【農作業安全研修の実施希望について】

農作業事故防止のため、協議会では令和3年度から地域協議会、県協議会が協力して、集落営農組織等を対象にした研修(対話型研修)の推進を図り、生産者の安全作業の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

<対話型研修とは>

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、組織の仲間と話し合いながら情報共有するとともに、組織で取り組む安全行動を定めて、農作業安全のレベルアップを図るきっかけとしてもらうものです。